ティーチング・ポートフォリオ　2022（令和４年度）

山村学園短期大学子ども学科
教授　橋本　淳一

１．教育の責任

私は子ども学科の教員として、子ども家庭福祉を主たる専門領域としながら、保育士資格や幼稚園教諭二種免許状取得に係る福祉、実習、教職等に関する科目を担当している。2021～2022 年度の担当科目は以下に示す表１のとおりである。

表１．2021～2022 年度の担当科目

科目名	開講年度	学期	対象学年	種別	受講者数	備考
基礎演習	2021	通年	１年生	講義	66 名	4 クラス ※教員 4 名
キャリアアップセミナーⅠ	2021	通年	１年生	講義	66 名	4 クラス ※教員 4 名
社会福祉	2021 2022	前期	２年生	講義	66 名 70 名	1 クラス
実習指導Ⅰ	2021 2022	前期	１年生	演習	66 名 70 名	5 クラス ※教員 5 名
実習指導Ⅲ	2021 2022	前期	２年生	演習	66 名 64 名	5 クラス ※教員 5 名
保育・教職実践演習（幼稚園）	2021 2022	後期	２年生	演習	70 名 64 名	1 クラス ※教員 3 名
子ども家庭福祉	2021 2022	後期	１年生	講義	66 名 70 名	1 クラス
教育方法・技術論	2021 2022	後期	１年生	講義	66 名 70 名	1 クラス ※教員 2 名
実習指導Ⅱ	2021 2022	後期	１年生	演習	68 名 70 名	4 クラス ※教員 4 名
保育実習Ⅱ	2021 2022	集中	２年生	実習	47 名 45 名	＊選択科目

また、上述の担当科目に関連して、次のような体験的な学習の企画・運営を行っている。

（実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎演習、キャリアアップセミナーⅠ）
・「保育体験Ⅰ」
幼稚園・保育園でのふれあい体験　（1年生）
・「保育体験Ⅱ」
幼稚園・保育園での園見学　（1年生）
・「保育体験Ⅳ」
大学近隣の地域や施設での行事のボランティア体験　（1年生）
（基礎演習（2021）/子ども学演習Ⅰ（2022)、キャリアアップセミナーⅠ
・「動物飼育体験学習」
埼玉県こども動物自然公園での動物飼育体験　（1年生40名程度）
・「里山保全体験学習」
鳩山町石坂の森での里山保全活動及び自然物を使った製作　（1 年生全員）
（実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、基礎演習・総合演習、キャリアアップセミナーⅠ・Ⅱ
・「実習報告会」
1・2年生合同の実習報告会（全体会・分科会）　（1・2年生）

ただし、2021・2022 年度はついては、新型コロナウィルス感染症対策のため、「保育体験Ⅳ」及び「動物飼育体験学習」の実施は見送られた。

【学科長として】

令和３年度４月からは、学科長を拝命し、従来からの学科目標、経営方針を継承しながら、本年度の重点努力事項（例えば、学力の３要素を勘案した入学試験の実施や、学生の学習機会の確保と感染対策を徹底した新型コロナウィルウス対策、新規の行事であるやまたん Juhlu Juhlu の実施等）の達成を目指し、各委員会と調整しながら以下の職務を担当している。
(1)会議関係
①学科会の企画運営・・・経営方針の作成、各回学科会次第作成、会議進行、学科年度末総括原案作成
②教育課程意見聴取会・・・議事企画案の作成
③授業担当者会・・・次第作成・議事進行
ただし、新型コロナのため 2021 年度については②教育課程意見聴取会は書面開催、③授業担当者会はオンライン形式で実施した。

(2)授業関係

①基礎演習/子ども学演習Ⅰ・Ⅱ（1年生)、総合演習（2年生)・キャリアアップセミナー（1年生・2年生）の全体企画と実施調整

②学習ゼミの企画・所属等の決定

③学習ゼミ発表会の企画・運営

(3)調査関係

①新入生UPI調査の実施と集計

②建学の精神表彰者の集計、確認・表彰状作成依頼

②全国保育士養成協議会等からのアンケート回収

③卒業生満足度アンケートの実施・集計　卒業式リハーサルに実施

(4)その他

①学級編制案の作成

②学科分掌案の作成

【キャリア支援センター長として】

学生一人ひとりの将来に活かせる実際的な支援の実施を目標に、学生一人ひとりのキャリアアップを目指したきめ細かい指導、社会的自立(自律)を目指す指導、コミュニケーション能力の向上を目指す指導を行うべく、以下の職務、行事をセンターのメンバーとともに企画、運営している。

(1)センター長が中心となる主要な業務

・キャリアサポートブックの作成、キャリア支援センター便りの編集・発行、

・キャリアアップセミナー授業内の初年次教育及び進路ガイダンス、進路体験発表会・進路講演会・学内就職説明会の企画・運営

(2) 初年次教育に関する業務

入学前教育と初年次教育の連続性を念頭に、入学前教育のプログラム作成(特に、課題及び担当者の配置)並びにキャリアアップセミナー内における初年次教育の総合プログラムの作成と実施を、学科並びに関係各委員会と連携して行っている。

(3)その他

求人受付・一覧作成・掲示、認知症サポーター講習会の実施、公務員対策講座の実施、作文テスト試験（２年生）実施、ハローワークとの連携、西部地区保育協議会との連携、全埼玉私立幼稚園連合会との連携、幼稚園・保育園との連携、進路関係参考書の選択と配架、卒業生アンケート調査、社会福祉事業団の説明会、
埼玉労働局の講演会、卒業生の相談及び再就職支援　等

【実習委員長として】

本学の授業科目における学外実習の取扱いについては、学生の資格取得や就職要件等のための単位取得上きわめて重要な活動であるため、関係省庁の通達に留意しながら、教育実習Ⅰ・Ⅱ、保育実習・Ⅱ、施設実習Ⅰ・Ⅱの各実習が円滑に行われるよう、委員会メンバー（各実習主担当者）と連絡調整を図りながら進めた。

(1)委員長が中心となる業務

①実習実施及び実習指導スケジュールの企画・立案

②実習参加判定及び実習評価の決定

③次年度実習日程の決定及び実習テキストの改訂

(2)その他

・実習園への依頼と実習園・日程の調整、決定、巡回担当教員の割り振り

・実習前、実習中の学生指導と事後指導

・実習日誌の評価、実習の成績評価

【一般選抜試験作問作業部会長として】

令和５年度一般選抜試験問題は 2 科目（国語・数学（数学活用））+小論文となるが、令和 4 年度に一般選抜入試は行われなかったため、本年度は数学のみ新規作成となる。数学については外部教員への委託を想定している。例年の作業部会での業務は以下の通りとなる。

①作業部会開催日程の決定

②作問分担者の決定

③問題案の検討

④問題・正答及び採点基準・解答用紙の作成と確認

なお、最終確認は学長へ依頼する。

２．教育の理念

私の教育の理念は、幼稚園教諭・保育士養成に携わって四半世紀を過ぎた今でも大学院を終えて教員を始めた頃と変わってはいない。簡明に言えば「自立と貢献」という言葉でそれは表すことができる。遥か半世紀前に自分自身が受けた教育の影響でもあると思われるが、今でもけっして色あせることはない。

今日の保育の学びでは、幼稚園教諭・保育士としての専門的な知識や技術の習得はもちろんのこと、なにより自分自身が一人の人間として、大人として自立していることと、子どもやその保護者だけでなくすべての他者に対してその存在を尊重し、共感し、受容し、そして貢献・奉仕ができるようになること、そうした人間的成長もまた大切であるとされる。

そして、一人の人間として「自立」するということは、けっして一人で生きていくなどということではない。むしろ多くの他者との関わりの中で、素直な心と感謝の気持ちを忘れず、主体的に多様な人々と協働することができることを意味している。

また、「貢献」も単に社会や誰かのためになる何かをただ漠然とやるというのではなくて、むしろ辞書的な意味の通り、「物事や社会に力を尽くして、よい結果をもたらす」ことであり、いわば「貢献」は目の前にある事物に力を尽くすことから始まるのである。

「自立と貢献」そして「人間的成長」。いったいどうすれば学生がそれを実現できるのか。教員の立場から、褒めることで意欲を引き出したり、失敗を防ぐ手立てを考えたり、模範を示したり、ヒントを用意したりといろいろ模索するものの、最後はやはり学生の自ら成長する力を信じることに行き着く。彼らを信じ、学生一人ひとり異なる多種多様な歩みに対して、それを尊重、受容し、援助は最小限に傍らで支援していきたい、過剰な援助にならないよう十分に注意しながら。

３．教育の方法

担当する科目の授業形態が講義もあれば、演習、実習もあり、さらに一人で担当するだけでなく、2 人で担当、4 人 5 人で共同して担当する科目もあって、その教育の方法は当然一様ではない。ここでは、教員一人での講義科目「社会福祉」、教員 2 人で担当する演習科目「保育・教職実践演習（幼稚園）」、教員 5 名（5 クラス）で担当する「実習指導Ⅰ」を特に取り上げ、シラバス上にある教育の方法の関連項目を以下に示す。

1）社会福祉

配当年次： 2 年次　開講時期：前期　　単位数：2　　授業形態：講義

免許・資格との関係：保育士資格必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 社会福祉と現実の子ども家庭支援や保育がどう繋がっているのかを知るとともに、現代の社会福祉の考え方や体系を理解し、その法律や制度、専門的方法・技術など、子ども家庭支援や保育の現場にいかせる知識の獲得をめざす。 【到達目標】 保育者に必要な社会福祉の理念や概念、歴史、制度と法律、相談援助の理論や方法・技術、及び社会福祉における子ども家庭支援の方策について理解し、適用することができる。
授業の方法等	パワーポイントのスライドとプリントを使い講義形式で進めます。

2）保育・教職実践演習（幼稚園）

配当年次： 2 年次　開講時期：後期　　単位数：2　　授業形態：演習

免許・資格との関係：保育士資格必修　幼稚園教諭免許必修

授業のねらいと到達目標	【ねらい】 幼稚園教諭・保育士として最小限必要な資質能力の全体について、確実に身につけるとともに、その資質能力の全体を確認する。 【到達目標】 学生が、教員・保育者となる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、その定着を各自で図る。
授業の方法等	講義、演習、ディスカッション、フィールドワーク、ロールプレイ、グループワークと多様な形式で進めます。また、ITCを活用した授業として、幼稚園・保育所・つどいの広場等での保育実践（フィールドワーク）などでは、その実践の様子をスマートフォン等でビデオ撮影し、その様子をプロジェクターに提示して改善点や工夫点等を議論するとともに、レポート提出はウェッブアンケートシステムを利用するなど、双方向型授業を意図したものとします。

３）実習指導Ⅰ

配当年次：1 年次　開講時期：前期　　単位数：2　授業形態：演習

免許・資格との関係：保育士資格選択必修　幼稚園教諭２種免許状必修

授業の概要	主として「教育実習Ⅰ・Ⅱ」の事前・事後指導として、実習準備から実習終了に至る細部日程はもちろん、特に実務教員からその職務経験を生かした、実習に必要な態度、基礎的な知識や技術、たとえば観察のポイントや子どもとのかかわり方から、幼稚園におけるより実践的な指導法や指導計画の立て方や指導案の書き方までを学びます。
授業のねらいと到達目標	【ねらい】 主として教育実習Ⅰ・Ⅱを円滑に行うため、「記録」することを中心にして必要十分な実習に関する知識・態度、技術・能力を習得する。 特に事前指導では、実習生として幼稚園の教育活動に参画する意識を高め、取得すべき知識や技能等について知り、実習の意義を理解する。 【到達目標】 保育者であることを自覚し、基本的な実習態度を習得している。保育場面の適切な観察を行うことができる。観察をもとに振り返り・評価までの必要十分な実習日誌を作成できる。幼児の発達等をふまえて保育実践にも参与できる。
授業の方法等	全体講義、グループ別の演習、ディスカッション、実技等多様な形式で進めます。

４．教育の成果、評価

本学では毎年前期末と後期末に学生に対して授業アンケートを実施しており、ここでは 2021 年前期・後期の授業アンケートの結果の一例として、「社会福祉」、「保育・教職実践演習（幼稚園）」、「実習指導Ⅰ」の結果を示す。このアンケートでは、問１：学生自身の取り組み、問２：授業の内容、問３：授業方法、問４：総合評価で、それぞれ 5 点満点でその評価を問うたものとなっている。

１）社会福祉（単独の講義科目）

授業の内容と展開は、おおむね厚生労働省の保育士養成課程の教授内容に沿って、学生はスクリーンに映したパワーポイントを使った授業のスライドから、要点だけを授業プリントに書き写す、ノート書きをあまり必要としないフルプリント方式とした。なお、シラバスには毎回の授業の予習、復習事項を付記した。

全般的に昨年より評価ポイントが 0.2 ポイント程度低い傾向にあり、全体的評価は 0.3 ポイントダウンしている。学生自身の授業への取り組みでは、私語を慎む

ことや意欲をもって授業に取り組むことなど昨年より目に見えて低下している。

表２.「社会福祉」2021 年前期授業アンケート結果

問1　あなた自身の、この授業への取り組みについて	平　均
1，欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.25
2，私語を慎んで授業を受けましたか。	4.41
3，授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.28
4，シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.20
5，予習･復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.11
問2　授業内容について	**平　均**
1，授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.20
2，授業内容のレベルは適切でしたか。	4.15
3，授業の進度（速さ）は適切でしたか。	4.13
4，この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.16
問3　授業の進め方について	**平　均**
1，教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.20
2，授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.18
3，授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.30
4，教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.20
5，教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.18
6，学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.16
問4　全体的評価	**平　均**
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.17

また、授業を通じて知識・能力が向上したかや質問に対して適切に回答していたなどの項目のポイントもいま一つの評価であり、本年度の学生にとっては授業内容や授業の進め方もあまり好ましいものではなかったことが判り、反省の余地が大いにある。全般的に昨年より低くなった授業評価は、最後 3 回の授業のまとめや試験の傾向と対策の授業回をパワーポイントによるオンデマンド授業としたことに一因があると思われる。授業の情報量が多すぎることや、反対に（他の学生の書くスピードが遅くて）何もしない時間が多かったなど、授業内容、進め方でも学生のコメントをよく吟味して授業展開していきたいと考える。

２）「保育・教職実践演習（幼稚園）」（教員 3 名で 1 クラスの共担の演習科目）

本年度も、グループによる幼稚園、保育所、つどいの広場での保育実践と壁面製作を中心に行い、保育実践については必ずビデオ撮影を行い、ほぼ翌週に上映の機会を設けて振り返りを行った。本年度も予定を告知し計画的にすべて上映した。

全般的に数値の改善が見られた昨年と異なり、反対にほぼすべての項目で 0.2 から 0.3 ポイント低下した結果となった。出欠席に関する取組みも昨年の 4.28 ポイ

ントから 4.00 ポイントまで低下するなど、授業への取組み、授業内容や授業の進め方に関する項目の数値も前年に比べおおむね 0.3 ポイント程度低下していて、授業の内容、展開に例年と大差なかったはずにもかかわらず、授業担当者の学外へのロールプレイ視察による不在が多かったことや授業担当者が交代し不慣れであったことなど、壁面製作の指導法や振り返りの進め方に昨年とは若干異なった点があったことが影響した結果と思われる。

表３.「保育・教職実践演習（幼稚園)」2021 年後期授業アンケート結果

問1　あなた自身の、この授業への取り組みについて	平　均
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.00
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.06
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.00
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	3.94
5, 予習･復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	3.92
問2　授業内容について	平　均
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	3.96
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。	3.85
3, 授業の進度（速さ）は適切でしたか。	3.89
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	3.96
問3　授業の進め方について	平　均
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	3.91
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	3.83
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	3.85
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	3.83
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	3.89
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	3.85
問4　全体的評価	平　均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	3.79

３)「実習指導Ⅰ」(教員 4 名 4 クラスの共担の演習科目)

実習指導に関しては前年に引き続きクラスアドバイザーによる指導時間を前年より増やすことで、指導案の書き方の添削指導だけでなく、実習全般の留意事項もアドバイザーからも指導できるよう、目標とする少人数指導の徹底を進めた。

全般的に昨年より評価ポイントが 0.1 ポイント程度低い傾向にあるものの、全体的評価は逆に 0.2 ポイント程度アップしている。ただし、学生自身の授業への取り組みでは、遅刻・早退をしないや私語を慎むこと、意欲をもって授業に取り組むことなどは昨年より明らかに低下している。

また、授業を通じて知識・能力が向上したかや質問に対して適切に回答していたなどの項目のポイントも若干の低下が見られ、カフェテリアの授業の難しさが窺え、その点の改善が臨まれる。しかし、授業に関する全体的評価は前年の 4.37

をやや上回る 4.41 ポイントで少し矛盾する結果となった。これは現場経験がないままの記録の書き方練習で多くの作業（宿題・課題提出）が課されたため、全般的に前年より少し低い数値となったものの、その作業の中で得るものも多かったと考えたのかもしれない。

表４.「実習指導Ⅰ」授業 2021 年前期アンケート結果

問1　あなた自身の、この授業への取り組みについて	平　均
1，欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.51
2，私語を慎んで授業を受けましたか。	4.40
3，授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.44
4，シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.33
5，予習･復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.28
問2　授業内容について	**平　均**
1，授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.28
2，授業内容のレベルは適切でしたか。	4.33
3，授業の進度（速さ）は適切でしたか。	4.35
4，この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.42
問3　授業の進め方について	**平　均**
1，教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.37
2，授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.35
3，授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.39
4，教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.30
5，教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.40
6，学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.37
問4　全体的評価	**平　均**
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.41

なお、自由記述では、実習の時の「大切なことなど、わかりやすく教えてもらえてよかった」「動画やパワーポイントで分かりやすく説明があったのでよかった」などポジティブなコメントが多かったが、全般的に昨年より低くなった授業評価ではあるが、実習ついてよく学べたというコメントは多く、日誌の書き方とその練習（添削）や実習の基礎知識や注意点など、現場での見学等ができなかった半面、その時間を授業内での指導に割いたことで想定外の成果をあげたものではないかと考える。

５．教育の改善に向けた今後の目標

１）ICT 化に対応した教育の改善について

2021 年度から本格導入された Edeu-navi システムについてはまだ十分に使いこなせておらず、不慣れな私にとっては重要な研究課題と思われる。2020 年度前期

と後期に実施を余儀なくされた遠隔授業ではグーグルドライブを利用した動画配信を行い、Edeu-navi では出席確認だけ行ったが、本来の機能を活用するなら、課題提示や授業資料のアップロード、小テスト、個別の質疑応答等多彩な活用が可能なものであるため、これらをぜひ活用した授業展開を目標としたい。

２）個々の科目の教育の改善について（社会福祉）

短期的目標	①学生が学びやすい授業規律の確立(授業環境の整備) 　ごく一部の学生であっても、授業中の私語や、携帯電話の使用（HP 閲覧、メールやゲームなど）などは、他の学生の学習意欲や効果を大いに低下させるため、そうした行為を根絶し、学びに関する一定の規律が保たれた教室、授業をめざしたい。 ②学生が学びやすい授業内容 　本科目の場合、厚労省より「教授科目の内容」として教授内容を細かく指示されているため自由度は低い。その中で、教授する内容を学生の想像力の範囲を想定しなら精選するとともに、福祉（サービス）のリアリティを新聞記事や映画を使ったフィクション・ノンフィクションの事例を活用することで学生に感じてもらい、関心・意欲を高めたい。 ③学生が学びやすい視覚教材の開発 　往々にして学生から指摘されるパワーポイントのスライドの見づらさを、シンプルな配色、レイアウトのスライドに変更することでの問題の解消を図りたい。
長期的目標	本科目は保育士養成課程における福祉に関する教科目の一つであり、そもそも保育士は福祉職であることから、授業を通した「福祉マインドの薫陶」こそ、最大にして長期的な目標といえる。 　ある意味熱量のある授業によって、特に、「ノーマライゼーション」、「インクルーシブ」といった現代の福祉のコアとなる概念を学生一人ひとりが理解して、それを保育の営みの中で体現できるかたちで、身につけていけるよう希望している。

６．エビデンス一覧

（１）シラバス（社会福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、実習指導Ⅰ）
（２）授業時配布プリント（社会福祉、実習指導Ⅰ）
（３）授業使用パワーポイント・プリントアウト（社会福祉）
（４）試験問題　社会福祉筆記試験、実習指導Ⅰレポート試験
（５）成績集計結果（社会福祉）
（６）授業アンケート結果　社会福祉、保育・教職実践演習(幼稚園)、実習指導
（７）体験的学習の実施要領【保育体験（Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ)、動物飼育体験学習、里山体験学習、やまたん運動会、実習報告会】　*実施年度分

（2022/8/24 記）